第２回基山町総合計画審議会

日　　時：平成 26 年 5 月 26 日（月）13:30～
場　　所：基山町役場　４階大会議室
出席委員：17 名
　　森田昌嗣会長、林真実副会長
　　田口英信、原憲一、永家重光、平田百合子、鶴岡健治、中村敏昭、
　　神原玄應、原利廣、芳野勇一郎、落合裕二（代理：井上洋）、中島しょう子、
　　天野龍、江渕勉、内山順子、篠原夏子
事 務 局：4 名　松田副町長、企画政策課　木村課長、寺﨑係長、久保山
傍 聴 者：3 名

１　開会
２　副町長あいさつ
３　委員の委嘱
４　議事録の署名人選出
５　議事
（１）第２回審議会の進行について
（２）基本構想（原案）資料について
（３）その他
　　①　次回審議会の開催時期について

1　開会

事 務 局：本日は、和栗委員さんは、所用で欠席という連絡が入っております。天野委員さんは遅れるという話でございます。

それから、うちのほうの担当が替わっておりますのでご紹介しておきます。従前、亀山がしておりましたけれども、今回、久保山が来ておりますので、今後皆様にいろいろご迷惑をかけるかと思いますけれども、よろしくお願いします。

事 務 局：久保山と申します。亀山の後任で総合計画を担当することになりました。皆様にはご迷惑をおかけするかと思いますけれども、ご指導をよろしくお願いいたします。

事 務 局：今日は佐賀県の統括本部の副本部長であられます落合様が所用があるということで、代理で井上様に来ていただいております。よろしくお願いいたします。

それでは会長、よろしくお願いいたします。

森田会長：皆さん、こんにちは。今日は第２回目となります。天気もこれから回復に向かうようですけれども、かなり夏に近づいて、暑くなってきているかと思います。私も上着を脱いでしまいましたけれども、クールビズだということですので、ぜひお願いいたします。

今日はたくさんの資料が作成されておりますので、これをベースに、どなたも忌憚ないご意見を交換できると思います。どうぞよろしくお願いします。

それでは、今日、副町長が来られておりますので、副町長にごあいさつ頂ければと思います。

2　副町長あいさつ

副 町 長：皆さん、こんにちは。今日はお忙しいところお集まりいただいて、審議会ということで審議していただき、本当にありがとうございます。

４月から副町長で来ておりまして、３月まで実はここの委員をしています芳野部長の所属している九州経済産業局という所におりました。その半年くらい前、それこそ先ほど話題になった亀山君から、こういう審議会をやるので、座長を誰にしましょうかという相談があったので、旧知の森田先生にお願いさせていただいたという、そういうこともあって、そういう意味ではこの審議会に対しての思い入れもあります。

せっかくの機会なので少しお話させていただくと、今、基山町で何をやっているかというと、３つやっております。この３つと、この総合計画をうまくリンクさせたいと思っております。

３つというのは、まず１つは、基山町のいろいろなハード施設、これが老朽化していて建て替えなければいけなかったり、そういうものがたくさん山積みであります。それから、例えばハードではないのですけれども、システムというか、基山町役場のいわゆるコンピューターシステムというのは非常に脆弱なものにできておりますので、それこそ中国の詳しい人がやったら一発でつぶれてしまうような、そういう脆弱ささえ感じるところなのです。そういったハードものを、全て今、何を整備しなければならないかという洗い出しをやっているところでございます。多分、１カ月くらいするとそれが全部出てくると思いますので、今後はそのハード物を洗い出した後、優先順位を決めて、その優先順位の上のほうからやるための戦略みたいなものを立てていかなければいけないと思っているのが１つ目でございます。

２つ目は、そういったハードものだけでは世の中動かないので、いろいろな施策とかシステムとか制度とか、そういったものをつくっていかなければいけないと思っております。それから、今活用されていない施策なども活用することも含めてですけれども、その中の主なものとしては、やはり子育て支援であったり、教育であったり、介護であったり、こういったところがその中心になるかなと思っております。もちろんそれ以外も、今日、出ていただいている委員の方々の分野に関係するところもたくさんあると思いますので、そこも今からしらみつぶしにやっていきたいと思っているところでございます。それが２つ目でございます。

３つ目は、こういったハードとかソフトが仮にうまくかみ合ったとしても、まちの元気とか、まちのにぎわいとか、まちの勢いみたいなものがないと、これはうまくいかないと思っております。これは文化でもそうでしょうし、商店街のまちおこしみたいなものもそうでしょうし、そういった、基山は元気がいいよねみたいな、そういう風評被害の逆、まさに過大評価を受けるようなイメージもつくり出していかなければいけないなと思っております。

この３つをこれから考えてやっていきたいと思っております。

そのときに、今回の総合計画というのは、まさに一番いい時期に今回立てますので、それとうまく合わせて、この３つを動かすためにも、逆に、それぞれがどっちがニワトリで卵か分かりませんけれども、総合計画がベースになって今のような話が動いていくということもあるだろうし、今のような話を動かすために総合計画を綿密に作り上げていくという、そういうこともあると思います。そういう意味では、まさに今後の議論と町がやることを一体的に推し進めたいと思っておりますので、審議員の皆様方、これまでもありがとうございました、で、また、これからの更なるご支援といろいろな意見と、また少しでも基山町を一緒によくしていこうということで、まさに協働のまちづくりをお願いできればなと思っているところでございます。

話し出したら30分、１時間平気で話しますので、これくらいでお話をやめさせていただきます。本当に今日はありがとうございました。

３　委員の委嘱

森田会長：どうも、松田副町長ありがとうございました。
　では、議事に入る前に、委員の交代がございますので、委員の委嘱をお願いしたいと思います。では事務局よろしくお願いします。

事 務 局：今、お手元のほうに、委員さんの名簿をお渡ししているのですけれども、変更となっている永家重光さんですね。前回までは、益田委員さんのほうが委員となられていたのですけれども、区長職のほうを３月いっぱいで辞められたということで、永家区長会会長さんのほうにお願いしております。

副 町 長：では委嘱状を読み上げます。委嘱状、永家重光様、基山町総合計画審議会委員に委嘱します。任期は平成 26 年５月 26 日から、審議会が全部終了するまでといたします。平成 26 年５月 26 日、基山町長小森純一。

事 務 局：続きまして、中村老人クラブ会の会長さんのほうに、前回まで時会長さんのほうがなられていたのですけれども、こちらのほうも会長職の交代がありましたので、あらためてお願いをしているところでございます。

副 町 長：委嘱状を読み上げます。委嘱状、中村敏昭様、以下同文で委嘱しますのでよろしくお願いいたします。

事 務 局：お２人の委員さんと、前回、第１回目の審議会のほうを、所用のために欠席された神原さんのほうが今日お見えですので、３人の方からあらためて皆さんに自己紹介を一言ずつで結構ですので、お願いしたいと思います。

永家委員：皆さん、こんにちは。３月に、前区長会長の益田が退任をいたしましので、４月から私が会長ということで引き継ぎました。第１回の審議会には、これを見ますと益田が出席しているようですが、今度から私が出席します。よろしくお願いします。ありがとうございました。

中村委員：皆さん、こんにちは。４月から、老人クラブ基山町会長の中村です。前会長は時でしたが、３月末で任期がきましたので、私も何も分かりません。取りあえず老人の代表として、ご意見を出していきながら、明るいまちづくりに、何とかして微力ですがいきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

神原委員：大興善寺住職、神原玄應でございます。前回のときは欠席いたしました。大興善寺は皆様ご承知のとおり、つつじとか紅葉とかいう観光を通して、たくさんの人においでいただいております。私は２代目でございまして、こうい

うことを始めたのは私の父でございまして、大正の終わりくらいから、何とか一つお寺を活性化するためにということでつつじを植えていった、それがスタートでございましたが、何とか皆様方のお力を頂いて、今のところ、にぎわっているところでございます。しかしこれを、基山町の発展のためにどうかつないでいただきたい。何とかこれをうまく活用していただいて、にぎわいといいますか、そういったものの、機関車とまではいきませんけれども、そういう立場で頑張らせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

4　議事録の署名人選出

森田会長：どうもありがとうございました。もう１件、議事の前にありまして、議事録の署名人の選出でございます。議事録の署名につきましては、基山町の総合計画審議会条例によりまして、この審議会の議事録を作成することとなっております。その議事録の署名については、会長及び委員の中から２名が署名することになっておりまして、前回、第１回目のときに署名人の選出をしておりませんでしたので、ここで前回の第１回及び本日の第２回と併せての選出をしたいと思っております。

私、会長とあと２名ということですので、選出ということですが、私のほうから指名させていただいてもよろしいでしょうか。

委　　員：異議なし。

森田会長：ありがとうございます。それでは、１名は副会長をお願いしております林さんにお願いしたいと思います。それから、もう１名は、商工会会長の田口さんにお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

委　　員：異議なし。

森田会長：それでは林さん、田口さん、よろしくお願いいたします。

では、議事に入りたいと思います。およそ15時半ごろを目安に議事を進めていきたいと思います。レジュメに基づきまして進めていきます。

それでは（１）第２回審議会の進行について、事務局より説明をお願いいたします。

5　議事

（１）第２回審議会の進行について

事務局より「第２回審議会の進行」について説明。

森田会長：引き続いて、（２）基本構想（原案）について、事務局より説明をお願いい

たします。

（２）基礎調査内容報告について

事務局より「基本構想（原案）」について説明。

森田会長：ありがとうございました。前回、１回目にたくさんご意見を頂いておりまして、その主だったところに、基になる資料であるとか、構想案の原点はどこにあるのかと、そういうデータ性の話がたくさん出ました。今回、その辺をフォローする形で多くの資料を頂きまして、再度、構想案につきましてご審議いただけると思います。多くの資料がありますが、ご質問・ご意見、何でも伺いますので、よろしくお願いしたいと思います。

事 務 局：すみません、一言だけ。資料３の「基山町８つの強み」の３番で、「日本に誇る基肄城の歴史」、この中の説明資料の中で、国指定特別史跡として1937年、昭和29年３月20日に史跡指定を受けたとなっているのですけれども、これについては1954年３月20日ということで、資料の数字の訂正をお願いしたいと思います。

森田会長：分かりました。昭和のほうは合っているのですね。

非常に多岐にわたっておりますので、なかなか、どうかと思いますが、前回、特にご意見を頂いた内容について、今日の資料等を見ながら、いかがでしょうか。どうぞ。

江渕委員：資料１の中で、５ページから第１章～第５章と説明されているのですけれども、第４次の計画には、「第６章・暮らしを支える活力」とあるのです。それについては、分析みたいなのはされていないのでしょうか。

事 務 局：申し訳ありません。資料のほうの表示がありましたので、再度、報告をさせてもらいたいと思います。ちなみに、先ほど、久保山から報告させたもらった分のＡ評価、80％達成状況と、50％の達成状況という形でいきますと、計画の実施率としては91％という形で、中間評価を行っております。

副 町 長：付いていないだけで、あるのですね。あとで、どなたかに焼いてもらって配ってください。

事 務 局：この分について、皆様のほうにお渡ししたいと思います。

森田会長：第６章は、抜けてしまっているということですね。

副 町 長：今のうちに焼いて配ったらいい。ほかの議論をしていただいている間に、配

りたいと思います。

森田会長：いかがでしょうか。はい、どうぞ。

芳野委員：個別の資料ではなく、全体を通してということだと思うのですけれども、強みとしてご紹介いただいた、例えば、福岡都心からわずか20分の立地条件ということで、非常にこれは強みだと思うのですけれども、逆に言うとそれは同時に弱みにもなり得るのかなという感じがしています。これから基山町でどれだけにぎわいを出していくかとか、あるいは外から交流人口として人を呼び込んでいくために、基山町での魅力を高めると、恐らく、逆に近いだけに、基山からどんどん人が出ていって外で買い物をされるとか、外ですごされるとかいうことにもなるかなという感じがします。ここをどう、基山の強みをつくっていくかというところが、今回の基本構想の１つの大きな眼目かなと思っています。

その際にやはり、この資料２のほうでいろいろな意見を集約していただいているのですけれども、例えばその産業面の話でいくと、商店街ですとか、あるいは地元の商店街に活気になくなってきているとかいうような話もございます。その場合に、どういう商店街の店づくりをしていったらいいのか、あるいはどういったにぎわいを創出するためのイベントをやったらいいのかというのは、恐らく商店街の皆さんだけではなくて、当然、町民の皆さん方と一緒につくりこんでいかなければいけないし、あるいは農産物のブランドというお話が先ほどあったのですけれども、なかなかブランドづくりというものを単発でやろうとしても厳しいところがあります。より広い意味での、例えば農商工連携とかあるいは商店街さんと連携されて、基山で作られた食材を、基山の商店街なり基山の飲食店でメニュー化してそれを出されるとかいうことで、基山の中での循環率を高めるというか、そういった全体に、商業とか農業とか工業とかの分野を取り払って、少し基山の魅力づくりみたいなところというのを、もう少し議論していくと、にぎわいとか仕掛けづくりとか、そういったものが出てくるのではないかなという感じがしております。

取りあえずそういったところです。

事 務 局：今言われたのは、もっともでございます。実を言いますと、基山は福岡に近いために、日常生活は基山で買うけれども、ちょっとしたものは博多に行って買うということになっておりまして、近いがために商店街はなかなか経営が難しいという問題も上がっておりますし、今言われましたように、農商工連携とか、そういうことも重要なことだと思っております。

基本構想の中には、そういうことはまだうたっておりませんけれども、そこを含めて、基本計画の中で議論をしていただきたいと思っております。基山は昔から博多の台所といわれるくらい、基山の野菜は随分博多に出た経緯がありますので、そういうことも参考にしながらやっていきたいと思ってお

ります。

森田会長：非常に大事なご指摘かと思います。よろしくお願いします。どうぞ。

中島委員：施策を達成したのに、人口増加しなかったという、先ほど久保山さんの説明がありましたけれども、この間も原委員さんがおっしゃっていたのですが、人口を増加させたい方向で、基山町はいくということで決まっているのでしょうか。

事 務 局：実を言いますと、人口というのは非常に、地方財政に大きな役割を果たしているので、１万8,000人というのは基本的に現状を維持していきますという念頭だと思ってください。これから、道路とか橋梁とか、各種施設の長寿命化をやっていきますけれども、それに相当の費用がかかってきます。人口が減れば、当然、１人当たりの基準財政需要額というのは減りまして、実を言いますと交付税も減ってきます。そうすると、そういうことができなくなってきますから、そういうことで、人口というのは非常に難しい時代ですけれども、下がっていいとは考えておりません。少なくとも、維持していくということを前提に考えております。

それから、なぜそれを言えるかといいますと、基山町内の不動産業者さんによく話を聞くのですけれども、実を言いますと、物件が不足しているんだという話を聞きます。ともかく住宅があれば売れるのだけど、という話を聞くのですね。ですので、基山町は、現状、住む人が来ないという場所ではない。物件がないから来られないという状況と聞いておりますので、そういうことも可能かと考えております。条件もそろっておりますので、そういうことを活かしながら、１万8,000人という目標人口をもって努力していきたいと思っています。

もう１つは、皆さんご存じだと思いますが、最近、人口問題で随分いろいろな予測が立っております。残念ながら基山町は、消滅可能性自治体と言われております。これにつきましては理由がありまして、過去に結構、けやき台が大きくなった時に、若い人がたくさんいたという経緯があります。今、それが減っているというので、その落差が大きいもので、それから推計すれば将来ああいう状況になるということでございます。だから、我々としては、そういうふうにならないように、努力をしていくということであります。何もやらなければやはりそれは、人口というのはある程度減っていくものと考えておりますので、基本的には、将来に向かって大いに増やしていこうというよりも、現状は維持していかなければいけないという考え方だというふうに考えていただければと思っております。

中島委員：すみません。先ほど、副町長がおっしゃったのですが、卵が先かニワトリが先かという問題だと思うのです。人口を増やすために、人気のあるという

か、人が目を引くような施策をするのか、それとも、本当にみんなが住みやすいまちをつくって、それが徐々に広まって人口が増えていくかという、そのどちらかなと、そこかなと思っていますけれども。

副 町 長：両方というのが、一番ありきたりの答えなのですが、現状がどうかというのを考えると、決して今が、今言われた後者の形で基山が盛り上がっていると、一部にはそういう所もありますけれども、全体的に見ればそうなっていないので、であれば逆に言えば、そうなるようにしなければいけません。そこは、目立つことだけをやるというわけではもちろんないので、根本からやっていかなければいけないと思っているところであります。

１例を挙げれば、基山パーキングとか、実際問題、基山町の商品は全く置かれていないのです。基山のチーズケーキというのは、基山が作っているのではなくて、みやま市の業者が作っているという実態があります。農家も、先ほど少ないという数字がございましたけれども、そういう中で若者が、新規就農で、今、基山の中で３軒くらいやっていたりするのです。彼らの活動は、ほとんど基山では知られていなかったりするので、そういったことも含めて、今から一緒に、それが目立つからやるというのではなくて、基山の活力を伸ばしていけるように、みんながお互いを認め合うような、そういう社会をつくれたらいいなと思っています。

今どちらかというと、頑張っている人たちいっぱいいるのですけれど、何となくそれが、横のつながりがないのです。それをやっていけば、おっしゃったような、ベースからの振興みたいなこともできるのではないかと今思っているところでございます。

かといって、やはり目立つこともある程度やらないと、分かってくれるだろうみたいな話というのは、実は危険だと私は思っていて、なかなか分かってくれるまでには時間がかかるので、そのためにはアピールすることも大事ではないかなと。別に、武雄市みたいなアピールをしなくていいとは思いますが、１例を挙げれば、放課後児童保育というのは、基山はこの周辺では非常に進んでいるのですけれども、そういったことは全く周りには伝わっていないし、中学校の子どもの医療費の問題なども、非常に基山は頑張っているのですけれども、全く知られていないので、こういったところは逆にいえば、もっともっとアピールしていかなければいけないのではないかなと思っているところでございます。

ただ、中島委員がおっしゃったことは、非常に我々としてもいつも考えさせられることで、議論の中で、人口を増やさなければいけないのみたいな議論というのはしょっちゅうやっているところなのです。その中から今みたいな形で、一応、案として考えているということでご理解いただければと思います。一方的に、その方向で町が動いているというよりも、いろいろな議論の中から、今の段階ではこういうことになっている。皆様方から意見を頂いてまた変えていくこともあるということでご理解いただければと思います。

井上委員(代)：人口問題に関して、少し意見させていただければと思います。確かに今、町のほうで意欲的にということでお考えになられている。それを否定するつもりは全然ありませんけれども、私は県のほうにおるのですけれども、そういう中で、最近、人口問題を新聞でもよくご覧になると思います。私どもも、人口問題がどうなるかということで、事実がどうなるかということをまず押さえようと、今、中で勉強会を始めているところです。

我々もちょうど総合計画が今年度で切れるということで、そういった中、施策の中でどういったことをやっていく必要があるのかということで、今後検討していくということになっていくのですけれども、今、合計特殊出生率が1.41くらいで、2.1くらいないと人口の維持ができないということで、日本全体でいえば、2030年に2.1くらいにしても、9,000万人くらいでやっと日本の人口が維持できるかなということで言われています。

それで国のほうが、社人研という所がやっている人口の予測などでいきますと、中位の推計でいっても、やはり2040年くらいには、人口的には、佐賀県でも68万人くらいになって、2110年、今から100年後くらいには30万人を切るだろうと言われています。

その中で我々が少し整理していく中で、どうしても今、合計特殊出生率だけではなくて、女性の方の数そのものが減っていくという事実があります。そういった中で、若い女性の世代の方々が今後どんどん減っていくということで、先ほど基山町の話も出ましたけれども、佐賀県全体で、20代から40前くらいの女性の方が2040年までに3割以上減っていきます。市町村によっては5割を超えるという所もありました。ですから、合計特殊出生率だけではなくて、どうしても女性の人口と特殊出生率がどうかということで、人口が減っていくという形になる事実もございます。

それで社会増減の話で、佐賀県から若い世代、大学とか就職でかなり県外に出られている。基山町がどうかということは分かりませんけれども、そういう事実もございます。そういった中で、高齢者の方が佐賀県では2035年くらいにピークを迎えて、それから一気に高齢者もどんどん減っていくということで、人口減の始まりも早いということも、我々も少しずつしています。

ですから、人口維持というのは確かに非常にいい施策で、それをするにはかなりハードルもあるという事実も、ぜひ、一回皆さん方で共有していただいて、それを実現するために、多分、宅地開発などいろいろなこともご検討されると思いますけれども、かなり難しいハードルがその達成のためにあるということを――我々がきちんと整理していかないと、と県でも思っているところなのですが、こちらのほうで特にお考えということであれば、ぜひその辺も皆さんで共有していただければと思います。少し長くなりましたが、以上です。

事 務 局：その件に関しましては、我々も重要視しております。実を言いますと、こ

の前、佐賀県の中で、鳥栖市はご存じのとおりいろいろなことをやっていますから、人口が増えていくというのは何の異論もないところなのですけれども、佐賀県の中で特徴的に人口の維持ができているのは、実を言いますと上峰町と吉野ヶ里町なのです。この２町は特に、開発を一生懸命やっているとかそういうものはないのですけれども、実を言うと、ここには自衛隊という基幹産業があるのです。だから、基幹産業があるところは割と人口がしっかり維持できるのかなという感覚は持っているのです。

それから、基山町につきましては、今ご指摘があったとおり人口が減っていくわけですので、基山町は今のところ特に産業はありません。実を言うと福岡市の住宅地ということで太くなった町ですので、あくまでも福岡市の太る間だけしか駄目だなという発想はあります。ただ、福岡市もせめてあと10年くらいしか太らないわけですから、それから後は人口減ということは当然考えていかなくてはいけないわけですので、今、内部的に話しているのは、総合計画の前期くらいに人口を増やして、後期についてはもう減に入ることも頭に入れてやらなければいけないとは考えております。

それから、当然、今言われましたとおり、現実的な、どこを宅地開発するか、どこをどうするんだという議論は、今後、職員を併せてしっかり議論をしていかなくてはいけないということは、今思っておりますので、その節はまたよろしくお願いします。

副 町 長：少し補足させていただくと、人口は基本的に、出生率と転入率と転出率と、出生率に関わる婚姻率と死亡率と、全てのそういった数字の積み上げによって起こってくると思っています。そして、それぞれを進めるためには、それぞれにハードとソフトの施策が必要なわけであります。

例えば、一番分かりやすいのが、今実は基山でも未婚の男女が極めて多い。役場がどこまでやるか分からないけれども、そういうマッチング的なこともこれから真面目に考えて、ほかの役場でやっている所はたくさんありますので、そういったことも考えていかなければいけない。一番頭が痛いのは、高校・大学を卒業した人がみんな基山から出ていくということなので、就職先のマッチングみたいなこと、ハードワーク的なことも役場がどこまでやるかですけれども、そういったことさえやっていかなければいけないなと思っております。

それから、鳥栖が特に今人口が伸びている理由は、保育料がめちゃくちゃ安いのですね。これはもう結構有名な話でございますので、待機児童がその結果として多くなっている。子どもを持つ人たちが増えているから待機児童は増えるのですよ。一方基山はそんなに増えていないので、待機児童はいないのですよね。だから逆に、基山は待機児童がいないけれども、鳥栖は待機児童がたくさんいるというふうに言うのですけれども、それは何ということはない、子どもがいっぱい鳥栖には増えているということだと思います。

当然ながら若い人たちが来るような住宅の整備とか、そういったことまで

必要になってくるし、これから介護、高齢者の時代なので、基山でそういった介護とか、そういったところの福祉の拠点みたいなそういう位置付けがあれば、逆に言えばある程度年齢がいった人たちが、また逆に基山に流入してくるようなこともつくれることは可能だと思っているので、佐賀県からはよく、基山はチャレンジャーだよね、こんな数字出してと、いつも、半分冗談、半分本気で言われるのですけれども、チャレンジャーとして、何かこう頑張って、何かのモデルみたいな形になれたらいいなと思っておりますので、佐賀県さんのご支援を、ぜひともよろしくお願いいたします。

江渕委員：今の人口に関してですけれども、第４次のときに、人口というのは１万9,000人、目標は２万1,000人くらいを掲げられて、10年間、行政されたその結果が１万7,000人に減っているじゃないですか。そういう原因というのは、きちんと分析されているのでしょうか。そういう分析がなく、ただ単に１万8,000人ですよというのは、少し乱暴すぎるのかなと思ったものですから。

事 務 局：その件に関しましては、先ほど久保山のほうが申しましたけれども、人口増対策については、いわゆるソフトでやっていこうという考え方でしたので、具体的にどこを住宅地にしようとか、そういう具体的なことは何もなく、ただ人口を増やそうという考えだったので、それではやはり、今後は増えないだろうという頭があります。市街化区域内にも農地が随分残っておりますので、そういうところも含めて、積極的に、町のほうがいろいろな施策や、事業者の応援とかしながら、住宅地にできるだけなるように、そういうハード的な具体的なことをやっていかなければいけないと考えています。

原（憲）委員：人口の関係で少し、この前、早抜けして、お土産だけ置いていった関係もあるのですけれども、松田副町長が言われるように、無謀な計画という見方をされるような、実際、今現在の計画として、そういう無謀とも言われるような計画を、基山町が作る意義がどこにあるのかなというのも、私は感じるのです。というのが、今、非常に日本でも問題になって、今ずっと議論があるように、人口減少社会が日本に、世界で最も進んだ形で到来をしているのです。たまたま、第二次世界大戦の敗戦国の、ドイツ・イタリア・日本という３つに非常に象徴されて、人口減少社会になってきていますけれども、それが日本の中で今、それは大変だという話があって、社会的な原因、経済的な原因を、今どういうふうに解決していったらいいのかが、日本の中で、地域でやっている所、あるいは政府、地方、いろいろな所でされていますけれども、言い方を変えれば、その原因をきちんと調査して認識しあった中で、後出しじゃんけんをしたほうが、まちにとってはいいのではないかなというような気持ちもあるのです。

それに向けて、みんなに、日本とかの議論の中に先行されて、いや大変だ、対策を練らなきゃ対策を練らなきゃ、それが本当に合っていればいいのです

けれども、合っている所が、近隣と比べて先行して人口減を留めるという形なのですけれども、それが本当に合っていなかったら、倍になって返ってくる危険性もあるのではないかなという思いがするのですね。

ですから、総合計画が10年を見据えた計画で本当にいいのかというお話も前回させていただきましたけれども、非常に、総合計画を作った限りは、構想に基づいて実施計画を作っていって、その実施計画に基づいて、基山町の役所のほうは動いていくということになりますので、非常にそこは、少し私も、ここで議論して、責任をもってこういう構想を練っていくよ、人口増やすより最低でも維持しようよ、というところにいきつかない自分がいるというのは、今正直なところではございます。

神原委員：全然、次元が違ってきますが、佐賀県であるということで、ここは福岡へ23分で近いのです。福岡にはもう23分で行けば、学校はいくらでもあります。福岡、久留米でも近い所はたくさんあります。私自身が実は久留米の高等学校を出ておりますが、昭和26年か27年のころは行けたのですね。今、基山で、私の所に合格祈願に見えます。名門校にぜひ通りたいと、合格祈願に見えて、合格すると大勢で来られるのです。基山ではいけないからということで、教育問題でもし基山が、福岡県の学校に行けたら、今の人口問題でも幾らかは、根本的な解決にはならないけれども、地域的にはものすごく近い所にあるけれども、行政の、これはやはりほげないものでしょうか。絶対これは駄目なのでしょうかね。

そういったことが何か非常に、基山という所にいて、非常に、観光にしてもそうなのです。いつかこれは小郡で、筑後川関連の会議があった時に、福岡県と佐賀県にまたがっている。そうすると福岡県のニュースが佐賀県には入らない。佐賀県のニュースが福岡県に入らないというような、お互いそこら辺で県境ということの、何か被害も被っているような、そういう気がいたします。そこは、人間が作った制度ですけれども、絶対駄目なものでしょうかね。

町長さんに、人口増やすのには、福岡県の高等学校に行けるようにしたら、まだ基山の人口は増えはしませんかとよく言うのです。それは唐突な意見ではございますけれども、そういった行政のしがらみというか、そこら辺をほがすような方法はないものでしょうか。

副 町 長：まとめて少しだけいいですか。まず江渕委員と原委員のほうを少しまとめてお答えすると、おっしゃるとおりなので、きちんとまず分析しましょう。分析はあまりまだされていない。ただ予想するに、やはり若手がいなくなっています。それが答えになると思いますけれども、そこのところをもう少し数字としてきちんと、次回までにお出しして、結果として対策をどうするかという、具体的なそれに向けての対策をお示ししたいと。チャレンジャーと言っているので、決して無謀ではございません。チャレンジャーだと思ってい

ただければと思います。

先ほどの学校の話も、子どもさんが出ていって、学校だけではなく就職口もそうだと思うので、そこは非常にきちんと考えていきたいと思いますけれども、逆に、皆さんに問いかけしたいのですが、私は30年くらい基山を離れていたので、例えば、高校の話をするのだったら、ここからきれいに見えますが、後ろに東明館高校という私立の高校があります。だったら、ここのレベルがどんどん上がるようになって、基山の人たちがここに行くようにするのが一番手っ取り早いはずだったのではないかなと。今、誰も基山の学生は東明館高校には行っていないし、レベルはそういう意味では落ちているのではないかなと思います。今回、立命館が全面的に乗り出しますので、来年から、ひょっとしたら看板も含めて立命館に変わるかもしれません。ぜひあれしましょう、福岡に行かなくても基山にはそういうのがあって、基山枠で頭のいい子が全部ここに行くようになったらいいのではないですかと。

温泉施設の山楽に、昼間、行ってみてください。閑古鳥です。ナンバーはみんな福岡ナンバー。佐賀ナンバーはほとんどいません。皆様方、優待券以外で行ったことありますかという世界になってしまっているのです。

けやき台もそうですね。何となく、基山なのだけど基山ではないみたいな、そういう世界が生じてしまっている、何かそういう感じ。朝市行きましたけれども、けやき台の人しか来ない朝市という感じになっています。

だからその辺を少しずつ改善していくと、チャレンジャーではあるかと思いますけれども、そういう少しずつよくなっていくと、ポテンシャル的には非常に高いことになるかなと思います。でも、逆を言えば、あそこが廃校になり山楽がやめてしまい、みたいになる可能性もあるのですね。

先ほど、非常に印象に残ったのが、原委員の後出しじゃんけん。私は後出しじゃんけんで今基山は負けていると思うのです。今こそ後出しじゃんけんだと思っていて、だから今こそチャレンジャーだと思っているのですね。もっと言えば、逆に言えば開発のときに、それが早かったので、逆にばっといった。だから結果として今負けてしまっているから、今こそ後出しじゃんけんだと思っているので、やれるのではないかと私は思っているところなのです。すみません、長くなりました。

中島委員：後出しじゃんけんで負けていると。先に出して勝っている所はどこかご存じでしょうか。

副 町 長：まずは、長野の川上村などはその例でしょうね。誰も考えていない、いわゆる長野はほとんど山地ですけれども、何を最初やったかというと、先ほど有線放送に関心があると言ったのは、そこがＣＡＴＶとコミュニティーバスを最初に導入して、そこからレタス栽培に特化した村に変わっていくのです。今は、１戸当たりの農家の平均所得が１千万円を超えていて、若い子たちが全部その川上村に戻ってきているのです。平均年齢もものすごく若返ってい

るので、これは、逆に言えばチャレンジャーどころか本当に誰もやっていないことをばっとやったという、そういうことでいうと、成功例でしょうね。ただしこれも、では何年これが続くかというのは分からないのですね。

それから今でこそ、おじいちゃん、おばあちゃんがスマートフォンやＩＰＡＤを持って山に入って、葉っぱビジネスとか今でこそあちこちでやられていますけれども、これも先にやったという意味では、四国の葉っぱビジネスの上勝町などはまさに、最初にやった所だと思うので、そういう先進事例はあると思います。

武雄も良し悪しはありますが、やっていることで認められるべきことは、目立つこと以外に幾つもやってあるので、そういう意味でいうと、ああいう所も先にやっているのでしょうね。

ただ先にやった所が果たして、最後まで勝てるかどうかは分からないので、だから、世の中のタイミングと流れがあるので、今、基山町はそういう意味ではいいタイミングだと私は思っていて、個人的には基山の逆襲が始まるのだと、はやらそうと思っているのですが、なかなかまだはやらないのですけれども、ぜひ皆さんはやらすのに協力していただいたらうれしいなと思っております。

中島委員：今、例を出していただいたまちでは、やはりそこだけに特化したものに、皆さん町民・村民が目を付けて、それをブランド化していったという例だったと思います。先ほど課長さんがおっしゃっていたように、造成をして宅地化をすればというお話があったのですが、けやき台が今、空き家がいっぱいありまして、本当に人口が減少しているのですけれども、やはり宅地は、家をつくっても、結局そういうことになりはしないかと。そこに少し疑問を抱いております。

事 務 局：今のにお答えします。実をいうと空き家について、住宅土地統計調査というのがございまして、全国的に行われております。全国的に十何％くらいいっている。佐賀県も十何％くらいいっていると思います。基山町は、前回の調査は４％くらいです。実をいいますと非常に少ないのですね。４％くらいは必ず出る数字だというふうに考えております。空き家自体が一時多かったのは、やはり価格の問題と聞いております。最近、1,500 万円台くらいになりましたので、だいぶ動いているという話を聞いております。不動産辺りにも聞いておりますけれども、出られてもしばらくするとすぐ入られるんだと、交通の便がいいから、九州管内どこでも行けるので公務員が多いという話を、実例を聞いております。

それから、高島団地が一番古い所で、後期高齢に入っている人がだいぶいるのですけれども、ここも、空いたら大体入ってくるということを聞いております。三井ニュータウンも同じです。基山町は、幸い駅から 15 分圏くらいの所に住宅がありまして、それを超えていないと、割と空き家が多くなると

いう状況ではないわけです。ですので、市街地の大きい所は、大きなまちだけれども、駅から15分も20分もバスに乗っていかないと住宅地につけないという状況ですが、基山の場合はある意味15分で行けますので、その辺は割と、空き家が残るという状況ではないと、今のところ認識しております。

原（憲）委員：人が住めるところをいかにつくっていくのかというところで、基山がコンパクトシティーに集積された生活必需品が集まっている、そこに住宅地も開発をされて、近隣に広がっているところで、言い換えれば、ワークショップとかこの間やってきた中でも、みどり豊かな基山町とか、そういうのが出るから、そういう形で維持するにはいいと思うのですけれども、１回目に話したように、今、我が家８人家族が４人家族に減っていますけれども、地域でいうと、家系の崩壊というのですか、そういうのが既にあって、昨日もお寺に行ってきたら、無縁墓地というか、うちは古い納骨堂のほうだったもので、ほぼいつも埋まっている姿だったのが、ぽつんぽつん、５分の１くらいが、もう見守る人がいなくなっているのです。

そういうのも含めて、どういう処理をされたかは知りませんけれども、田舎でいうと、昨日も団体長会議を受けて、大体25日ですが23日に２区の運営委員会があって、２区という所は各末端行政で、集会という形で村中が集まって、向こう１カ月間の、まちの課題、あるいは地域の課題について話し合いをして、その中で紅白モチが配られて、何年ぶりですかね、もう中学生に一番最後の子どもが中学校に上がりまして、初めての、少し時期的には早稲だったのでしょうけれども、７月か８月には子どもさんが生まれて、奥さんが来られて一緒に住むようになったというお話を受けて、それはおめでとうございますということで、ゼロ歳児から次の子どもまでが中学生ですから、12、3年たってやっと次の子どもが出てくるというような、そういう形です。もうお祭りとかも20年くらい続けて、春の桜の時期にやっています。

そのとき、個人情報になってきたので今年は出していませんけれども、120人くらいいた２区の小さな、私が住ませてもらっている小原という地域が、いろいろな家庭の状態もあって戸数も減り、今は80を切るくらいまで減ってきて、そういう状態なのですね。家系の再生、家族の再生、地域の再生、そういう視点で、昔ながらの基山のそういう家系を残していって、基山に定住して、代々住んでいくというところも含めて、いかに残していくかも考えないと、コンパクトシティーでいい所だけではなくて、本当に周辺の部分を、いかに基山の、コンパクトに、外にいる地域の人たちをいかに残していくかというと、やはり経済的な理由が多いのですね。

うちの子どもたちは、みんな多久の工場に行ったり、東京に就職で行ったり、旦那について大阪に行ったりというのが現状です。これを親と一緒に住もうと言っても無理な話なのです。たまたま一人だけが家に残っていますけれども、そういう意味では、そういう人口を守るという視点でも、この構想の中には若干、そういうコンパクトシティー以外の皆さんをどうしていくの

かという視点が少ないのかなという気はしました。

事 務 局：原さんの言われることは、基山の周辺部の所でよく聞く話でございます。私の所も、子どもがいないのでお祭りができないところがあります。ただ、思うのは、やはり周辺部も守らなければいけないということですね。それをするにはどうするかということですけれども、私がちょっと考えていることがあるのです。

基山は、幸い福岡に近いのです。だから皆さん、就職はみんな福岡でします。就職の心配も、実をいうと、よその山間部のまちほど心配はしないのです。福岡に行けばあるというレベルです。だから便利だから、よそにあれば何とかなるという地域でした。でも、福岡もあと10年すれば、もうもたなくなってきます。最初に申し上げましたけれども、やはり吉野ヶ里町とか上峰町が地元に大きな産業があるように、基山町としても何らかの産業が必要ではないかと。

そういう意味では、田口さんがいらっしゃいますけれども、やはり地元の企業をしっかり支援していくということも、今後、地元の就職先をつくるということも必要だと思いますし、芳野さんがおっしゃいましたように、６次産業ということもやっていかなければいけない。地元の産業もしっかりやっていかないと、前半は宅地を増やすくらいで人口はある程度維持できるでしょうけれども、後半は地元に仕事がなければ、本当に住む理由がなくなります。そういうことは、当然あると思います。

だから、そういうことはしっかり、基本計画の中で議論しながらやっていきたいと思いますし、皆さんも、うちの地域担当職員とかいろいろな話をすると思うのですけれども、その中でもそういう意見はしっかり上げていただけたらと思っております。

副 町 長：住宅の話と地域コミュニティの話が出たと思うので、地域のコミュニティの話については、逆に、まさに基山の得意とする消防団とか、公民館とか、そういう地域のコミュニティ、それからスポーツもそうですね。分館対抗のスポーツ大会とか、極めてまだ地域に密着したものがあるので、その良さはきちんと残しつつ、拡大していくみたいな、そういう話が必要だと思います。

ただ１つ気になったのは、では２区の31号線よりも向こうに新しい住宅ができて、外から若い人たちが入ってきたときに、２区の人たちがどれだけこう温かく迎えてくれるのかなというのも気になるところなので、逆にそういうのもまた、部分的にはうまくいっている所が既にあると聞いていますけれども、まだ基山全体ではそういうところまでいっていないと思うので、そういったものも、今後大事になってくるのではないかなと思います。

住宅については、一戸建て、場所、値段、高層・低層のマンション・アパート、いろいろな分類があると思いますので、きちんとした戦略を建てて、どういうものを基山のどこに位置付けるみたいな話までおいていかないと、単なる

住宅の戸数だけの数合わせだけではいけないと思っております。

田口委員：商工会を代表してというか企業側というか、前回もいろいろな話をさせていただきましたけれども、人口減少に伴う消費の低迷というのは、全国どこでもあっている話で、基山町も例外ではないです。

前回も申し上げましたけれども、人口は減るものだということを前提にして、では何をしたらいいのということをあまり議論されていませんから、国もどういう施策を出してくるのは全く分かりません。商工業者としても、では人が減って、買い物客がいなくなった時点でどこが間引かれるのか、どこが統廃合されていくのかというのを、これは商工業者、全てにわたって、我々企業側も同じことが言える。

結局、今起きているのは、大企業が次から次に日本を離脱して海外にシフトする。海外にシフトする理由は、地産地消で現地生産を行うということが一番の目的と彼らは言っているのですけれども、実はそうではなくて、人口が日本で減り始めて、減り続けていく。こうなると、もう買ってくれる人間がいなくなる。そして、若い世代がいなくなる。そうすると、作ってくれる人間もいなくなる。

トヨタ自動車九州工場で、去年、おととし、今60歳以上の人が、楽に働けるようなラインをつくっているのです。こんなばかげた話が、もう現実に見え始めてきている。生産効率が悪くなるにもかかわらず、その生産を落としても高齢者を使わなくてはいけないというような世の中の風潮に合わせて、わざとらしく私たちには見えるのですけれども、現実、そういうラインが出来上がり始めている。

しかし、実際中身を開けてみると、減ることを前提にして、大手企業は日本を去り始めていますので、実は国がこういったところに、経産省の方を目の前にして言うのも何なのですけれども、こういうところをあまり大きく取り上げないですね。むしろ、逆に中小企業も含めてどんどん海外に出てくださいという話をされるのです。それも１つは、確かに大事なことなのですけれども、我々中小企業も生き残っていくためには外に出なくていけないし、仕事がなくなったらどうするのということを考えれば、やはり海外にも出なくてはいけない。それは確かにそうなのだけれども、では日本国内はどうなるのということを考えると、非常にお先が暗くて分からない。

そういう中で、商工会自体も、やはり１つは、買い物客のターゲット層としては、若い世代というのはふんだんに大きな買い物もしますし、家も買うという話でしょうし、自動車も、服飾、衣食住何でもそうなのですけれども、高齢者に至ってはもう住む所もあるし、衣服についてもそんなに特段贅沢をするわけでもない、食べ物に至っては高齢化していけば粗食になっていく、そうするとあまり贅沢なものを食べなくて、慎ましやかに生きていくという人が多くなってくる。そうすると、だんだん消費が低迷していきますから、やはりそういったところで、今、我々商工業者は何をやるかということを一

生懸命考えています。

それは、木村課長もおっしゃったように、基山町だけではなくてどこの世界でもそうですけれども、これから10年、20年くらいまででしょうか、買い物弱者、買い物難民が恐らく膨大な数に上がっていく。20年過ぎると、今度は高齢者が急減していきますから、買い物難民が逆に減っていく。しかし同時に、今度は若い世代も減りますから、どうにもならない状況が30年後くらいから襲ってくるというのは、はっきり見えているわけですね。

そういう中で、松田副町長がおっしゃったように、各地で特色のあることをやって伸びている地方が幾つも出てきている。九州地区でもそうです。そこに中心的に役割を果たしているのは、商売人なのですね。商売につなげている人たち、農家もそうですし、商売人もそうですし、工業もそうです。同じようにそうやって連携している人たちの所は、非常に伸びがいいのです。

だから、やはりそういった意味で、商業者が１店舗で買っていける市場はもうありませんから、ある程度タッグを組んで、いろいろな業種と一緒になってやらなくてはいけない。そういうことを基山町でも何か起こしていかなければいけないという、商工会長としての使命もあるのです。

そういう中で、ちらっと出た農業との連携という意味では、農協さんのハードルというのが非常に大きくて、そこが非常に大きく壁になって立ちはだかっている部分があるのです。今日は農協の方がいらっしゃらないからこんなこと言えますけれども、実はそこが非常に大きな問題、足かせになるということで、つい先だってから、安部総理も農協の仕組みを変えていかなくてはいけないということを発表されました。そこが１つきっかけになるような気がします。

農商工連携も、第６次産業を目指して我々も考えていきたいと思いますし、そういう仕組みを基山町も応援してほしいなという気持ちはたくさん持っています。でも、やはりそこの行政的なその仕組みの壁が、非常に大きく立ちはだかってきますので、これはもう規制緩和を全国的に、国を挙げてやっていかなくてはいけない。これは農商工に限った話ではなくて、医療とかいろいろな分野で、日本の規制というのは世界一高いものがありますから、そういったところを十分緩和していかなくてはいけないかなと思います。

駅前商店街も、前回も申し上げましたが、トライアルが撤退した跡というのはまだ空白のままです。これもどうにかしていかなくてはいけないという、商工会としての命題があるわけです。あそこを空いたままにしておいたらどうしても活気がない、人が寄らない、少なくとも、買い物、あるいは金融機関、何でもいいのですけれども、足をあそこに向けてもらうだけで、そこで周辺の人口密度が上がってくるということを考えれば、積極的に人を呼び込むようなイベントをやらなくてはいけない。

空き店舗、空き店舗とよく耳にするのですけれども、実は空き店舗はあまりないのです。今、モール商店街で本当に空き店舗になっているのは、３～４軒くらいです。皆さん、半分くらい空いていると思っていらっしゃらない

ですか。でも、実際そうなのです。なぜかというと、夜開いている店が増えているということです。夜の人口は増えているけれども、昼間の人口はどんどん減っています。やはり人が、あそこを歩いている風景を、日中はあまり見ません。夕方も見ないですね。夜になって明かりがつき始めると、若い人たちがわいわい言いながらあの辺をうろうろしている。それはそれで、私はいいのかなと思っています。

だから、商工会でも、今度、夏祭りにどぶろっくの２人を呼んで、一大イベントをかまして人を外から呼び込もうという目論見をやって、おかげさまで経済産業省さんのまちおこしの補助金を、振興会として受けることができましたので、この大切なお金を使わせていただいて、まちおこしをやろうと。ただそれは、目的は、外から人を呼ぶためのまちおこしをやろうということなので、いろいろなＰＲも兼ねて、そういうマップづくり、ナイトマップ、グルメマップ、あるいはお役立ちマップ、こういったものも作ろうと思っているのです。そういうものを含めて、町内外に積極的にアピールをして、基山町内で買い物客が少ないのなら、外から来てもらおうよと。

少なくとも、人口を増やすということに対して、私も前回、いろいろお話しましたけれども、先々増える見込みがあればそれはいいのですけれども、50年後減っているというのは間違いないわけで、どうあがいたって２人、３人以上子どもを産んでくれないと、日本の人口は１億2,000万人維持できません。これは、はっきりしている話です。ですから、いくら国が2.1にするとか2.07にするとか言ったところで、もう維持できない。

では、そういう意味で、まちが衰退していくのをどうやって歯止めするかというのは、そういう積極的な商売展開、人間生きていれば衣食住というのは必ず要るわけで、それはただではできないわけですから、ぜひともそういったところで、商工会としても頑張っていきたいと思っています。

観光協会の事業もそうです。私、観光協会の総会に出席させていただいて、基山の草スキーのレンタル料がなんと１年間70万円も出ているという、70万円もレンタル賃が収入として入っているというのを見てびっくりしたのです。１つ300円の物を70万円分も、それだけ借りている人がいるということで、びっくり仰天しました。その人たちはどこに消えていくのだろうかなと。

こういう人が、基山もそうですし、基肄城の歴史遺産もそうです。町長が言われるように、地の利ということを前面に押し出して、人は来るのですけれども、それがうまく基山に足が下りていない、お金も下りてこない。そういうのは、我々商工業者の一番の務めかなと思います。

前回お話したような、道の駅の構想、町長も町長になられるときに道の駅という、いわばマニフェストみたいにして言われていたのがトーンダウンして、いつの間にか消えてしまいましたけれども、私はぜひその構想を受け継いでやっていきたいなと。やはり、商売につながるような、そして皆さん、高齢者も若年層も含めて、衣食住に絡んで、農商工も含めて、いろいろな連携が取れるような仕組みをぜひ考えていきたいと思いますので、その辺も、

町のほうも積極的に取り組んでいただきたいと思っています。
すみません、長々と申し訳ない。

芳野委員：先ほどの田口委員のお話にも関連するのですけれども、少し産業面のお話をさせていただくと、先ほど田口委員からお話がありましたとおり、なかなか大企業を中心に海外に展開しているというお話で、私ども、経済産業省としても、そこはすごく危機感を持っていまして、実は大企業さん、中小企業さんを含めて、日本国内の工場で設備投資を、国内でものづくりをしていただくというために、かなり今、重点的に支援させていただいていて、その趣旨は日本国内にものづくりをしっかり残しておかなければいけないということと、その働いてもらう場をつくっておかなければいけないということで、かなりここ数年で重点的に支援をさせていただいているところなのです。

一方で、やはり日本国内の需要がシュリンクしていく中で、いかに海外のマーケットの需要を取りにいくかというところも大事なものですから、日本の国内で作る根っこは残していただきながら、輸出等で海外のマーケットを取りに行くといったところも支援させていただいているところです。そうやって、趣旨は日本国内での産業活動といったものを残さなければいけないと。当然、日本の強みというのがあるので、それを残していく必要があると思っております。

そのためにいろいろな支援をさせていただいているのですけれども、九州あるいは基山町の話をさせていただくと、実は工場立地動向調査というのを私どものほうで調査しているのです。これらの全国シェアが、ピークが確か15年ほど前だったと思うのですけれども、全国シェアでいくと九州は15.2%あったのです。これは、面積とか人口が大体全国の1割ということに比べると、かなり高い数値だったと思います。

ところが、昨年25年度の数値を集計すると、全国シェアが8.7%くらいまで落ち込んでおります。これは、先ほどのお話と関連するのですけれども、新たに日本国内でものづくりをしようというところが、かなり落ち込んできている結果ということだと思います。別にその全国シェアが落ちているだけではなくて、全国的にそういう立地動向というのが、かなり低調になってきているのです。そういった中でも、やはり九州、あるいは基山町でのこれからのまちの発展とか地域の発展を考えると、企業の誘致、あるいは田口電機工業さんはじめ、こういった基山町にあるいろいろな優秀な中小企業さんをどう支援していくかというのが課題になっていくかと思っています。

1点、例えばこれから基山町のほうで、産業誘致、企業誘致とか、そういったところをしていく際に、どういったところに強みを出していくかというのが非常に重要だと思っていまして、例えば、それは先ほどお話があった教育面で優秀な人材がいるとか、あるいはこの強みにもありますように、圏域を越えたネットワークがあるので、基山町だけで完結しないところは、久留米であったり福岡市だったり、大学と連携するとかそういったところで、基

山町で企業活動をすることによって、非常にメリットがあるというのをどれだけプレゼンできるかといったのがすごく重要になってくると思っています。

やはりそういったところを、これから、産業面については、先ほどの商工連携とかの話も含めて議論していって、基山町の強みみたいなところを、どんどん出していく形にしていく必要があるのではないかと思っています。

森田会長：すみません、私、授業がありまして戻らないといけないので、ご意見いっぱいあるのだろうと思うのですが、私からも一言。

今、ずっとご意見を拝聴していて思ったのが、もう言い古されていますけれども、やはり持続可能な社会、サステナビリティーといいますけれども、産業もしかり、何でもそうなのですけれども、やはり20世紀型でまちをおこしていこうというのはもうほとんど無理がきていると思うのです。

そうなると、最近の言葉でグローバルとローカルを併せた造語で「グローカル」というのがあるのですが、視野は世界、グローバルに見て、いろいろな所の視点を取り入れるのだけれども、起ち上がるのはローカル、要は地域から起こしていって、地域からグローバルに発信していく。極端にいうと、基山町から佐賀県、佐賀県から九州、九州から日本、日本からというよりも、もういきなり佐賀から世界かもしれません。そういった視点のときに、やはり地域に足を立てている状態で何をしているのかということです。

どうもずっと聞いていると、日本中が同じようなスタイルで基本構想を立てて基本計画を立てる。どれもこれもやっていこうと。でも、どれもこれもやれないと思うのですね。ですから、そのときの優劣の付け方というのでしょうか、ウエイトの置き方というのが、その町の持っている特質で、どこをよりプラスプラスしていって、どこをぐっと抑えるのかというところのバランス、持続性を考えて、非常にポテンシャルのある地域ですし、過疎の町ではないわけですので、非常にこう立地もよく、有効性があるとポテンシャルを持っている所ですので、それをどう引き上げるのか。要は、佐賀県の基山に住みたいという帰属感をどうやって醸成していくのかというのが大きいポイントかなと。やはり、最近言われますオンリーワンのまちづくりということに、ぜひ、構想を盛り込んでいただければと思います。

副 町 長：少しだけよろしいですか。本当に今日はありがとうございました。特に最後には、森田会長までご意見を頂きましてありがとうございます。

人口問題についていうと、あくまでも10年間、今のあれでふんばろうということで、30年、50年後に基山町の人口が減らないと思っているわけではないので、そこはまず誤解のないように。ただ10年間はふんばろうという、そういうことです。

２点目が、先ほど農業の話とか出ましたが、まさに産業競争力会議という分科会で、農業と雇用と福祉介護、この３つが今検討されております。この検討されることを、ちょこちょこと安部総理が所々で言うという感じになっ

ています。この３つはかなり進んでおりますので、逆にいえば国の動きに先回りするような形で、自治体もそれに先回りして取り組むような、そういう観点がこれから必要なのではないかなと思っております。

最後に、田口委員の意見に関しては、答えはほとんどないのですが、田口商工会会長、それから農業が問題だという、ＪＡの森支所長、それに私は小学校・中学校の同級生でございますので、今後は仲良く商工会とＪＡと行政が、一体的にいいほうに考えていかなければいけないと思っております。今日は農協はおりませんけれども、みんな一緒に頑張っていきたいと思っております。今日はありがとうございました。

林副会長：まちづくりというのは、工業、商業、農業、介護、福祉、教育もそうですけれども、多岐にわたるものだなと思います。

私は生活者として、20年、ここで子育てもしてまいりましたし、仕事もボランティアもしてまいりましたけれども、やはり、たくさん課題―データをいただきましてありがとうございます。これを見ますとやはり、私が思ってきたことと同じような意見がたくさんあって、例えば教育にすごくお金がかかるとか、教育の質があまりよくないとか、先ほど、大興善寺の住職がおっしゃった、外に出ていけない。普通だったらこう、基山町に住んで半径20㎞とか10㎞で活動できるものが、どうしてもその行政の壁に阻まれてしまっているところもあります。

私、先日、実はフランスに旅行してまいりまして、アスパラガスの産地なのですね。アスパラガスのおいしい料理をたくさん食べてきたのですが、基山町のアスパラはとてもおいしくて産地なのですけれども、先日、子どもにアスパラ買ってきてと言ったら、基山町のアスパラガスがスーパーになかった、外国産しかなかったと言われたのです。朝市とかありますけれども、常設ではないですし、ＪＡのスーパーでもそうですし、やはりその基山町で24時間とは言いませんけれどもスーパーが開いているときに、基山町の産直のものが買えるということはまず基本でほしいです。それと食べられる所がないという意見もたくさんありますので、基山町に産直カフェ、特に今、ＢＩＯというのがすごく世界的にもはやっていますので、無農薬の、あるいは減農薬といった地産地消のＢＩＯカフェみたいなものを持ってくる。そこで、本当にアスパラのいろいろな料理が食べられる、アスパラのキッシュから茹でたアスパラから、緑のアスパラ、白いアスパラ、いろいろありますね。ブルーベリーも、何かそんなお料理とか、お茶とかもあると思うのですね。そういったバリエーションをもっと増やしていただきたいという。

とにかく、循環の仕組み、女性も高齢者も若者も、そこで活動できて交流ができる仕組みというのをつくっていただきたいなと。それが農業を守ることにもなり、雇用が発生することにもなり、そこにぜひ、森田会長のような、交流の場をデザインされる方に、ぜひお力添えいただいて、何か誇りを持てるようなデザインのあるまちにしていただきたいと思っております。

すみません、長くなりました。ありがとうございます。

田口委員：すみません、時間が押しているでしょうけれども、もう１つだけ、私が知っている情報の中で大事なことがあります。それは今企業が、人材が不足しているがために外国人を盛んに雇用し始めています。いろいろな所でも外国人雇用というのは、研修生の目的で、３年間日本に来て、東南アジアだとか中国だとか入ってきているのです。

実は、私の知っている企業で、基山町でマンションの空き家を借りて、10人から15人、外国人を住まわせようとしている業者がいます。この近々、もうそういう状況が来ると。それの働き手はどこかというと、基山の大手の事業所だということです。詳しい内容は分かりませんけれども、こうやって、安倍総理はいつだったか、そんなこと言って委員会の中で、移民は受け入れないと、はっきりノーを突き付けられましたが、実は政府も考えてあると思いますけれども、日本の人口が減っていく中で、外国人をどういうふうに活用するか。移民を受け入れる国にはならないにしても、そういう労働人口を増やすために、外国人をどんどん日本に来てもらおうと。そのためには、暮らしも含めて、生活も含めてやらなくてはいけない。

そういうことで、恐らく今後将来、10年間どうなのかというのは分かりませんが、相当の勢いで基山にも外国人が増えてくる可能性がありますので、そういった部分での住みやすさというか、安全性も含めて、基山町でも少し議論の対象にすべきではないかなという、提案だけさせていただきます。

副 町 長：既に、外国人で住民票を持っている人が相当数基山町にいます。問題があるので数字を出してというのはまずいのですけれども、多分、皆さんが考えている以上に外国人の方が基山町の住民票を持っています。住民票を持っていない人も入れると、もっとすごい数字にはなっていると思うので、大事な視点だと思います。

森田会長：すみません、時間も限られていますので申し訳ございません。今日、発言ができなかったという委員の皆様方は、メールでもお電話でも結構ですので、事務局のほうにお寄せいただければと思います。

では議事のほう、事務局に返します。

（４）その他

①　次回審議会の開催時期について

事 務 局：長時間にわたり、ご審議いただきありがとうございました。スケジュールのほうでは、次回の審議会は９月を予定しておったのですけれども、構想自体が固まらないと基本計画のほうにも入っていけないということもありますので、期間の部分については、また事務局のほうで調整させていただいて、

皆様のほうに日程調整のほうをお願いしたいと思っているのですけれども、よろしいでしょうか。

今、森田会長のほうから言っていただいた、言い足りない部分の意見等については、久保山のほうから連絡先について、それぞれの委員さんに再度お知らせをしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

副 町 長：呼んでいただいたら、いつでもどこでもまいります。お声掛けください。

事 務 局：それでは、第２回目の審議会をここで終わらせていただきます。本日は、熱心な議論ありがとうございました。

（閉会）

基山町総合計画審議会条例第１１条の規定により、ここに署名する。

平成 26 年 7 月 14 日

基山町総合計画審議会　会長　森田昌嗣

委員　田口英信

委員　林真実